

税についての作文

神崎中3年 増田千夏さん 神崎町長賞

椿 恵介さん 香取地区教育委員会連絡協議会会長賞

全国納税貯蓄組合連合会並びに国税庁が主催した中学生の「税についての作文」。本町から作品を応募した神崎中学校3年の増田千夏さんが、見事、神崎町長賞を受賞しました。また、椿恵介さんの作品が香取地区教育委員会連絡協議会会長賞に、吉井佑菜さん、森田樹史さんの作品が佐原税務署管内納税貯蓄組合連合会優秀賞に入賞しました。増田千夏さん、椿 恵介さんの作文を紹介します。

納税は社会貢献

神崎中学校3年 増田千夏さん



母は、毎年二月に、何回も祖母の家にいきます。農業を営んでい

る祖母の確定申告の準備を手伝うためです。確定申告の準備の様子は、祖母の家に一緒に行った時に何度か見たことがあります。売上明細書やいろいろな領収書があり大変そうでした。しかし、確定申告の内容については詳しく知りませんでした。「なぜ祖母は確定申告をする必要があるのか」を母に尋ねてみると、所得税と消費税を納めるためだということでした。そして、確定申告の手引きを見せてくれました。その手引きには、私には難しい文章や計算式がたくさん書いてありました。それらの式に当てはめて計算することによつ

て、納めなければならない所得税や消費税の税額が決まるそうです。この体験から、確定申告についてよくわかりましたが、消費税については疑問が残りました。消費税は消費者が商品購入の際に納める税だとはかり思っていて、なぜ祖母のような生産者も納める必要があるのかわからなかったからです。消費税には商品の生産者、卸売業者、小売業者、消費者とその商品に関わった全ての人が税を納める義務があるそうです。最終的には消費者が負担をしますが、生産者も生産に係る消費税を納めなければならない義務を持っています。そのため、祖母は確定申告して消費税を納めなければならないわけですね。

消費税で記憶に新しいのは、昨年四月に税率が五パーセントから八パーセントに引き上げられたことです。私は消費税以外の税は税率の引き上げがないので不思議に

思いました。調べてみると、消費税は税収が安定していて誰もが公平に納めることができるからだということがわかりました。確かに、中学生でも消費税なら納めることができるので消費税率の引き上げにも納得できます。確定申告をして税を納めるということは大切だと感じました。

私達から納められた税金は、どのように私達の生活と関わっているのかについても考えてみました。私の通う中学校では、夏休みを利用して校舎の外壁を塗り替える工事が行われました。学校は見違えるほどきれいになりました。今回

納税の環 神崎中学校3年 椿 恵介さん



私が住んでいる町、神崎町は千葉県内で一番面積の小さい町である。町民一人一人が住み易い町になるように、役場の方々や教育委員会の皆さんが税金の使い道を考えてくださっていることを租税教室で初めて知った。それ以来、町内の様々なところに税金が活用されていることに関心をもつようになった。関心を持ったことは、大きく分けて二つある。

一つ目は、神崎中学校の生徒のために、多くの税金が使われていること。それは、社会科の先生に伺ったことや『広報こうざき』で

の工事は町が予算を組み、町民から納められた税金を使って行われたものです。つまり、税金のおかげです。このように考えてみると、身近なところで私達の生活と深く関わっていることを実感することができました。

私達の納めた税金で私達の生活はより豊かなものへと変わっています。一見大変そうに見える確定申告も、私達の生活の向上に役立っていることがわかり、必要なものだと思います。これからも税について勉強し、納税の義務を果たして社会に貢献していきたいです。

知った。神崎中学校は、暑さ、寒さが厳しい、夏と冬の時期に冷暖房を使用してくれる。あまり意識していなかったことだが、他の中学校の生徒と交流した際に「冷暖房が完備されていることは、当たり前ではない。」と言われ、税金のありがたみを痛感した。また、町内の小中学生は、神崎町でとれた新鮮で美味しい作物を使った給食を食べるだけでも幸せなことなのに、給食費の半額を税金で負担して頂いている。さらに今夏、神崎中学校では、外壁改修工事を行っている。平成二十七年「広報こうざき」八月号の「入札結果の公表」に、約三千万円もの税金が神崎中学校の校舎を改修するために使われていると掲載されていた。このような大金は、一個人で払える金額ではない。すなわち、

納税する一人一人の力が合わせられていくということだ。

二つ目は、街灯を多くしてくれたこと。私の地域は中学校から遠く、冬は暗い道路を通って下校していた。街灯を多くして欲しいという要望に、町は新設もしくは古い街灯をLEDの街灯に交換してくださった。税金によって道路をつくり、税金によって安全を確保する、都心のように街灯や商業施設の明かりで年中明るい街では経験できないことだと思う。神崎町だからこそ、税金の使い道やありがたみを五感で感じ取る事ができたのだと思う。

また税金は日本人一人一人の力が集結したものだと思う。今、私にとって身近な税は消費税だが、大人になったら、指定された金額をきちんと納税したい。小中学生の時は、税金に養って頂き、大人になったら納税する。そして、高齢者になったら生活支援をして頂く、このような連鎖は今日まで繋がってきたように、後世へと繋げていくことが大切だと思う。一人でも多くの人の役に立ち、日本を活気づけるために、税金という大きな力の一つのパーツにして頂きたいと思う。今後、日本という豊かで素晴らしい国に生まれてきたことを誇りに思う人が、納税を通じて増えていくことを心底から望んでいる。納税を一人一人がきちんとすること、日本に「納税」という力強い環が生まれ、結束力が高まると信じている。